

90人が受験し合格率は67% 第1回認定試験に60人合格 認知症研修認定薬剤師の



認定薬剤師に付与されるバッジ

日本薬局学会が創設した「認知症研修認定薬剤師制度」の第1回認定試験の結果が、11月11日に発表されました。90人が受験し60人が合格、合格率は67%でした。認定申請者には「認知症研修認定薬剤師」であることを示す証書・バッジ、薬局に張れるステッカーなどが付与されます。

期待される多職種連携の場でのスキル発揮

日本薬局学会の「認知症研修認定薬剤師制度」は2015年7月に創設されました。初年度は札幌・大阪・東京・新潟・福岡でワークショップが開催され、計196人が受講。第1回認定試験は、京都で開催された第10回学術総会の前日、10月28日に行われ、初年度受講者のうち90人が受験しました。試験は筆記と面接に分かれ、面接試験は二人の試験官が、一人当たり10分、面接しました。

その結果、60人が合格、11月11日に日本薬局学会のホームページで発表されました。合格者は今後、認定申請に進み、認定された薬剤師は学会のホームページ上で、都道府県ごとに氏名が公表されます。

同学会の認知症研修認定薬剤師制度企画委員・土居由有子氏は、「資格者を作ることが目的ではない」と前置きして、次のように認定薬剤師に期待を寄せています。

「認定薬剤師には、身に付けたスキルを多職種連携の場で生かしてほしい。また患者さんと接する中で、気付きの注意も怠らず、気に掛かった患者さんを専門医に繋げてほしい。一方、所属する企業には、認定薬剤師が活躍できる場を、しっかり提供していただきたい」

今年7月以降の2016年度のワークショップは、仙台・大阪・東京・名古屋・福岡で行われており、第2回認定試験は2017年11月25・26日に、埼玉県さいたま市で開かれる学術総会に合わせて実施されます。

認知症研修認定薬剤師制度 認定試験合格者の声

担当者会議など多職種連携の場で制度をアピールしていきたい

ファークロス薬局あい(東京都大田区) 佐藤 優子さん

在宅医療にも積極的に取り組んでいるファークロス薬局あい
に異動してから、丸3年が経ちました。パートを含めて7人の
薬剤師がローテーションを組み、施設・居宅を訪問してい
ます。おおむね週に2日は、在宅の患者さんを回っています。

昨年、日本薬局学会が「認知症研修認定薬剤師制度」を
創設すると聞き、在宅医療が主体の現在の業務内容と合致し
ていると考え、資格の取得を目指すことにしました。実際に
訪問している患者さんの中にも、認知症の方や、認知症を疑われる方がいらっ
やいますので、そうした方々に、少しでもお役に立てるのではないかと考えました。

というのも、認知症が進んだことを理由に、入院もできない患者さんが、
実際におられるからです。そうした方を支えるのも、薬局薬剤師の大きな役割と
考え、挑戦しました。

これまで、往診同行する医師には処方提案などを続け、薬剤師職能を発揮す
ることを心掛けてきました。これから、認定証が発行され、正式に認定薬剤師に
なった後には、担当者会議など多職種が集まる場で制度をアピールし、患者さ
んを支える場を少しでも増やしていきたいと考えています。

(談)

